

京大病院医療安全情報25

【免疫抑制時のB型肝炎再活性】

【他院事例】

悪性リンパ腫の治療を受けていた男性患者が死亡したのは、抗がん剤「リツキシマブ」の副作用でB型肝炎ウイルスが増えたのに、病院が必要な措置を怠ったためだとして、男性の遺族が〇〇大学に約1億円の損害賠償を求める訴えを起こした。

男性は悪性リンパ腫と診断されて2009年11月に入院し、リツキシマブの投与を受け、5度目の入院中だった2011年11月、肝不全で死亡した。入院直後の血液検査で男性がB型肝炎ウイルスの持続感染者と判明していた。

遺族側は、2010年6月の血液検査でウイルス量が増えていたのに、病院はリツキシマブの投与中止や抗ウイルス剤の併用をせず、注意義務を怠った、と主張。月1回のウイルス検査を求めた厚生労働省の指針も守らなかった、としている。

リツキシマブについては、同省が2006年、投与後にB型肝炎が悪化して死亡した事例があると発表し、医療機関などに注意喚起するよう製薬会社を指導していた(読売新聞)。

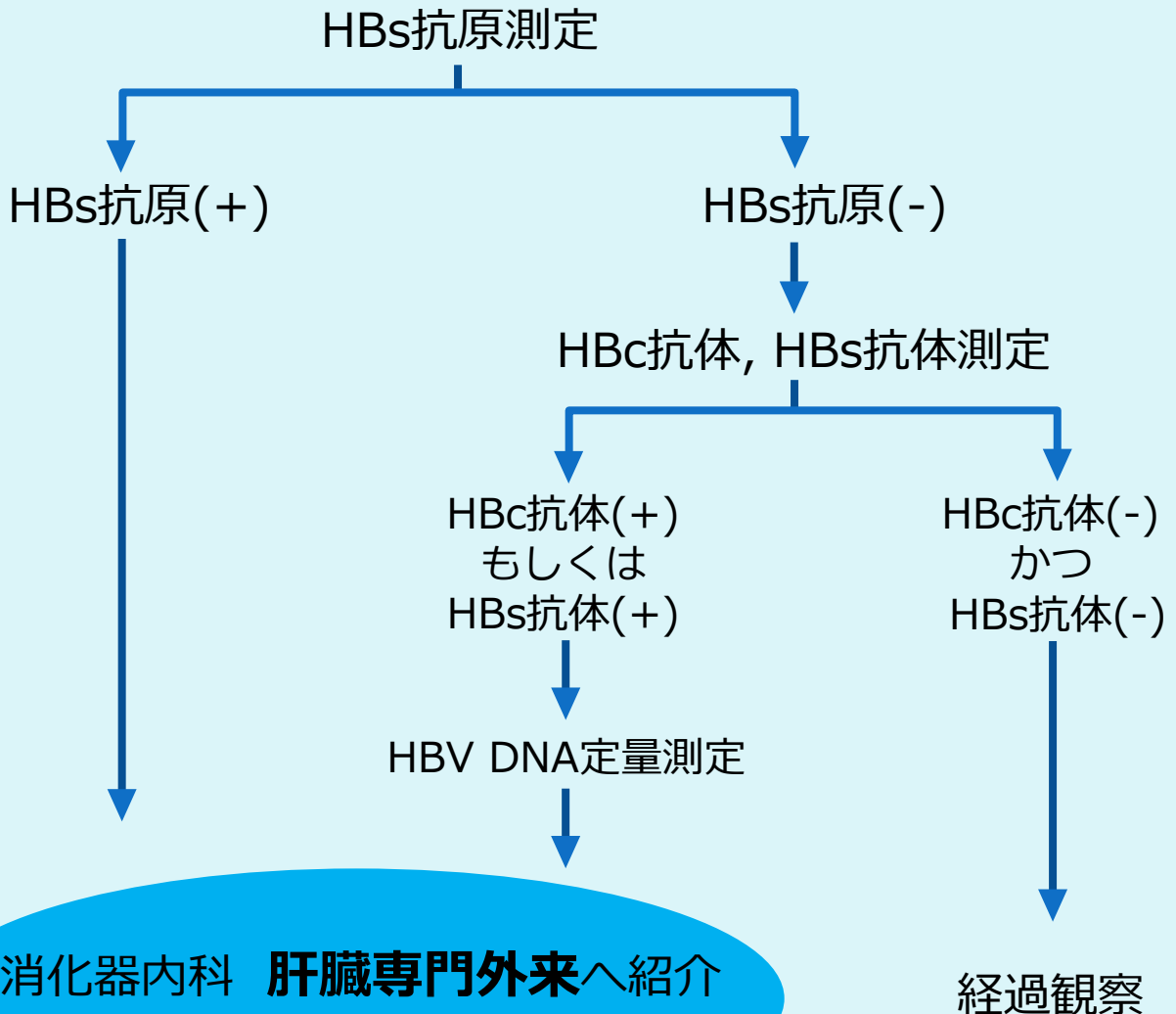
免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策

2012.11.27

B型肝炎ウイルス(HBV)キャリアおよび既感染者では、以下の薬剤使用時にB型肝炎の再活性化が起こることがあります。

抗癌剤・ステロイド・免疫抑制剤
抗TNF- α 製剤・リツキシマブ

使用を予定している患者



消化器内科 **肝臓専門外来**へ紹介

月：丸澤， 水：上田， 金：高橋